

主な出来事

【内政】

- オマール・ボンゴ前大統領没後１０周年式典の開催
- 内閣の一部改造
- ンバニエ島領有権問題のＩＣＪ付託に関する法案の可決

【外政】

- デビー・チャド大統領のガボン訪問
- カガメ・ルワンダ大統領のガボン訪問
- チセケディ・コンゴ民主共和国大統領のガボン訪問
- 中国・ガボン外相会談

【経済】

- ２０１３年から５年間で石油収入が８，６００億セーファ減少
- ガボン政府、ガボン石油公社(Gabon Oil Company)がと石油精製公社（SOGARA）の統合を承認
- 木材の輸出再開

【内政】

１ オマール・ボンゴ前大統領没後１０周年式典の開催

８日、オマール・ボンゴ前大統領没後１０周年式典が大統領府において開催され、サス・ンゲソ・コンゴ共和国大統領、ンゲマ赤道ギニア大統領、ニヤシンベ・トーゴ大統領、ケイタ・マリ大統領及びトゥアデラ中ア大統領らが参列した。（１１日付UN）

２ 内閣の一部改造

１０日、内閣の一部改造が行われ、首相を含めた閣僚数が３６名から２９名に削減された（女性閣僚は１１名から６名減）。英国出身でガボン国籍を取得したホワイ特国立公園庁長官（IWCコミッショナー）が森林・海洋・環境相に就任するなど、新たに１０名が入閣した。また、女性閣僚減に関して、ミレブ・オブッソン上院議長などから不満の声が上がった。（１１日付UN及び２９日付UN）

３ マサバラ「新たな共和国のための連合」（CNR）報道官の釈放

マサバラ（Mr.Frederic Massavala）CNR報道官は、平穏を害する非武装集会を扇動した罪で平成２９年９月８日に起訴され、平成３１年２月に５年の懲役及び６０万セーファの罰金刑を言い渡されていたが、控訴院による審議の結果、８日に釈放された。マサバラ報道官は政権交代のための政治闘争を続ける意思を示している。（１３日付GR及びGMT）

４ ンバニエ島領有権問題のＩＣＪ付託に関する法案の可決

２６日に行われたガボン上院本会議において、赤道ギニアとの間におけるンバニエ島領有権問題のＩＣＪ付託に関する法案が賛成多数によって可決された。（２７日付UN）

5 通常国会会期末後のブクビ国民議会議長の発言

28日、通常国会会期末の機会にブクビ国民議会議長は、政治、経済、社会生活に関する演説において、多くの逸脱行為等があったと非難する発言を行った。(29日付UN)

【外政】

1 デビー・チャド大統領のガボン訪問

5日、ボンゴ大統領は実務かつ友好訪問の一環でガボンを訪問したデビー・チャド大統領と大統領府で会談を行った。同会談中、両大統領はとりわけ経済及び財政面における中部アフリカ経済通貨共同体(CEMAC)の機能に関する問題といった地域の諸問題及び共通の関心事項を取り上げた。また、アフリカ大陸における治安問題も取り上げられた。(6日付UN)

2 ボンゴ大統領とムシキワボOIF事務総長の会談

3日、ボンゴ大統領はムシキワボOIF事務総長と会談を行った。両者は仏語圏が直面する課題について全般的な意見交換を行うとともに、ガボンとOIFの協力関係を更にハイレベルなものにするとの意思を表明した。同協力関係には教育、文化、デジタル開発、科学的調査、男女平等問題等も含まれる(4日・5日付UN)

3 カガメ・ルワンダ大統領のガボン訪問

10日、ボンゴ大統領は、実務かつ友好訪問のためガボンを訪問したカガメ・ルワンダ大統領と大統領府で会談を行った。両大統領は、両国間の協力関係、アフリカ自由貿易圏設立協定及び中部アフリカ地域の課題等について取り上げた。(11日付UN)

4 チセケディ・コンゴ民主共和国大統領のガボン訪問

11日、実務かつ友好訪問のためガボンを訪問したチセケディ・コンゴ民主共和国大統領はボンゴ大統領と会談した。両大統領は、良好な両国関係を歓迎しつつ、中部アフリカ及びアフリカ大陸の複数の国の情勢に関係する諸問題に加え、二国間協力関係強化の道筋や手法について取り上げた。(12日付UN)

5 中国・ガボン外相会談

23日、ガボン政府を代表して中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)北京首脳会議の成果実行に関するシェルパ会議に出席したビリ・ビ・ンゼ外務大臣は、王毅外交部長と北京で会談を行った。(27日付UN)

【経済】

1 2018年の銀行セクターの総売上高は前年比で10.8%増

2018年の銀行セクターの総売上高は、顧客からの預入増等により前年比で10.8%増の2兆4338億セーファを記録した(1日付UN)。

2 2013年から5年間で石油収入が8,600億セーファ減少

2013年に1兆4424億セーファあった石油収入が、ガボンの石油産出量の逡減により、2018年には5,830億セーファに減少した。(5日付GMT)

3 ポールジャンティ・オンブエ(Omboue)間の道路の引渡は本年9月の予定

2014年に開始されたポールジャンティ・オンブエ (Omboue) 間の道路建設は、本年9月に引き渡される見込みとなった。同道路建設は、中国輸出入銀行から総額3,420億セーファの融資を受けたプロジェクトである。(5日付GMT)

4 リーブルビル、アカンダ及びオウエンドにおける都市交通網整備への融資に関する Banco Standaer (スペイン) 及び英国輸出信用保証局 (UKEF) との協定書の署名

4日、オガンダガ経済・計画・開発計画 (前) 大臣及びエンガンジ・アランジ機材・インフラ・公共事業大臣はマドリッドにおいてリーブルビル、アカンダ及びオウエンドにおける都市交通網整備への融資を目指す Banco Standaer (スペイン) 及び英国輸出信用保証局 (UKEF) との協定書に署名した。(6日付GMT)

5 2019年のGDPが5兆717億セーファに達する見込み

2019年のGDPはIMF等のデータによると、好調な鉱物セクターや石油製品価格の上昇により、5兆717億セーファに達する見込み。(6日付GMT)

6 ガボン政府、ガボン石油公社 (Gabon Oil Company) がと石油精製公社 (SOGARA) の統合を承認

ガボン政府は6月13日に開催された閣議において、ガボン石油公社と石油精製公社の統合案に関する大統領令を承認した。(14日付UN)

7 木材の輸出再開

18日、ホワイト大臣森林・海洋・環境大臣 (気候プラン担当) は、希少木材 (ケヴァジンゴ) の不正輸出問題の発覚以降、2ヶ月間禁止されていた木材の輸出を再開することを決定した。同大臣は同問題の対策のため、車両による監視を担当する同省職員の強化や長期的には木一本ずつにバーコードをつける等の対応策も検討していく意向。(18日付GR)

8 ンコク経済特区発の木材の輸出量がガボン全体の約40%を占める

ンコク経済特区発の木材の輸出量はガボン全体の約40%を占める。現在、同経済特区が扱う木材の量は年間60万立法メートルであり、政府は2021年までに年間1700万立法メートルに到達するのも目標としている。(26日付GMT)

9 2018年のガボンの一番の輸入先はフランス

2018年のガボンの一番の輸入先はフランス (25.8%) であり、それにベルギー (10.4%)、中国 (9.3%) が続く。2018年のガボン・フランスの貿易収支は、2,506億セーファの赤字であった (29日付UN)

出典: PR (大統領府公式HP), UN (ユニオン紙), GM (ガボン・マタン紙), GN (ガボン・ニュース電子版ニュース), AFP, GA (Gabonactu.com), GR (ガボン・レビュー電子版ニュース), LG (ル・ガボン電子版ニュース), GE (ガボン・エコ電子版ニュース), AFP (フランス通信社), GL (ガボンリーブル電子版ニュース), AFI (アフリカ・エネルギー・インテリジェンス), LP (LOUP 紙), EN (エコー・ノール紙), GMT (ガボンメディアタイム), GI (ガボンインフォス)